

ESD通信 No.44

令和3年2月16日発行

— ふるさとを愛し未来を拓く子の育成をめざして —

新居浜市一宮町一丁目5番1号 学校教育課 (0897) 65-1301

『みんなの思い募集』事業（新居浜ユネスコ協会）

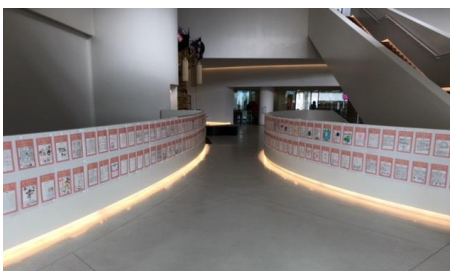


新居浜ユネスコ協会は、あかがねミュージアム運営グループ・新居浜市教育委員会共催のもと、『みんなの思い募集』事業を行いました。コロナ禍の中、児童・生徒が今想っていることや伝えたいことなどを、メッセージや寄せ書きという形で募集し、それらの作成や鑑賞を通して、現在の状況をみんなで力を合わせ、思いやりの心を大切にして乗り越えようとする気運を醸成することを目的としています。

『コロナ禍で感じること』『コロナウイルス感染症終息後に挑戦したいこと』『コロナウイルスに負けずに頑張りたいこと』『エッセンシャルワーカーの皆さんへの感謝の思い』など、今だからこそ感じることを絵や文字で表現しています。あかがねミュージアムには、募集していただいたすべての作品 803 枚が展示され、参加人数は 1265 人にのぼりました。イオンモール新居浜でも展示していただく予定です。



1人1人の思いを大切にしながら、展示の準備をしました。



あかがねミュージアム館内展示の様子です。



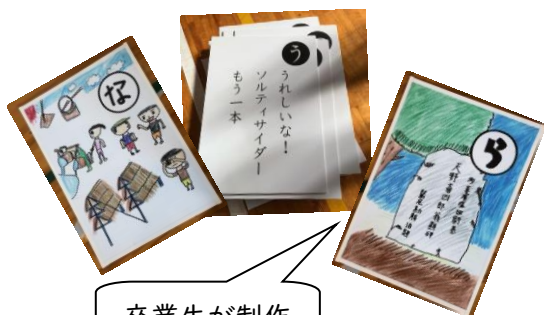
海洋教育『多喜浜塩田を未来に伝えよう』（多喜浜小学校）



多喜浜小学校では、教育課程特例校として、『海っこタイム』という科目を新設し、SDGsの14番「海の豊かさを守ろう」に関する教育活動を中心に行っています。各学年で行われた取組の一部を紹介します。



1年生『ビッグ塩田かるた』

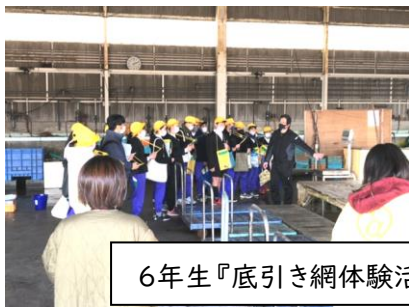


卒業生が制作

1年生は、卒業生が6年生の時に制作した『ビッグ塩田かるた』を用い、塩田についての理解を深めました。当日は、多喜浜塩田資料館建設推進委員会の委員のみなさんが来校され、かるたの読み上げや進行を行ってくれました。熱い戦いが繰り広げられる中、獲得した絵札を児童が嬉しそうに掲げると、その都度、担任がその内容について簡潔に説明を加えていきました。



5年生『海洋ゴミ』



6年生『底引き網体験活動』



5年生は、阿島の海岸で、『海洋ゴミ』について学びました。まずは、ゴミ拾い。ペットボトルや空き缶、ナイロン袋等、各自が持ってきた袋からはみ出すほどのごみを集めました。次に、担任が簡単には目視できないごみの存在を明らかにし、『マイクロプラスチック』の学習へと移行しました。6年生は、市内に工場があるビーコシーフード株式会社の山崎さんを講師に迎え、『底引き網体験活動』を行いました。疑似体験ではありましたが、その漁法の仕組みを体感することができました。また、関係施設を見学しながら、多くのことを学び、海洋教育に対する興味・関心を高めていました。

地域協働農業体験学習『別子ファーム』（別子中学校）



この学習は、地域の方々の野菜づくりの知恵と、生徒や教職員が持つアイデアや体力を互いに活かして野菜をつくることで、地域の活性化を図ることを目的としています。これは、学校の教育目標「社会に役立つ人を育てる」の実現に向けて大切にしている、多様な大人との関わりを通して学ぶ教育活動です。『別子ファーム』を開始した初年度の今年は、地域の協力で、夏野菜と冬野菜を数多く収穫でき、採れた野菜は地域に配ったり、生徒が家庭に持ち帰って、おいしくいただいたりしました。

